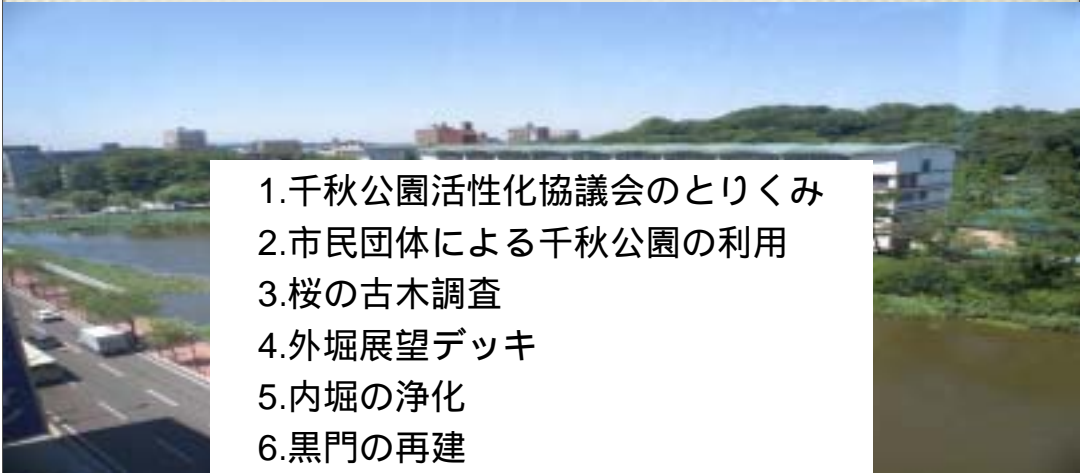


# 千秋公園シンポジウム2009



- 1.千秋公園活性化協議会のとりくみ
- 2.市民団体による千秋公園の利用
- 3.桜の古木調査
- 4.外堀展望デッキ
- 5.内堀の浄化
- 6.黒門の再建

話題提供



年間約98万人が訪れる千秋公園。

藩政(はんせい)のなごりを今日に伝え、桜やツツジの名所として、また、緑豊かな都会のオアシスとして、四季折々の表情で、やさしく私たちを迎え入れてくれます。

# 千秋公園再整備基本計画

～水と緑と歴史的資質を活かした市民による公園づくり～



市は、平成9年に『千秋公園再整備基本計画』を策定し、公園内の再整備を進めてきました。



再建された表門



本丸の園路広場

平成13年には表門(おもてもん)が完成、17年には公園西側の園路舗装を終え、現在は、本丸の園路広場の再整備に取り組んでいます。

また、この千秋公園を、次の世代へと受け渡すため、いま、多方面において様々な取り組みも進められています。

# 1. 千秋公園活性化協議会のとりくみ



一つ目は、千秋公園活性化協議会の取り組みです。

千秋公園活性化協議会は、旧城下町地域のにぎわいの再生、千秋公園およびその周辺における良好な景観の形成、来訪者の安全安心を確保しようと、千秋公園を拠点として活動する市民グループらにより、平成19年8月に設立されました。

これまでの主な活動内容は、

- ・「思ひ出の千秋公園を語る会with写真展」の開催
- ・千秋公園の園内案内サインの社会実験
- ・千秋公園シンポジウムの開催

さらに、千秋公園散策ガイドなどの作成を行っています。

また、千秋公園に関する情報をホームページで紹介しています。

(<http://www.senshuu-kouen.com/>)

皆様、是非アクセスしてみてください。

## 2. 市民団体による千秋公園の利用



市民グループによる自発的な取り組みも行われています。

平成20年10月11日(土)から13日(月)の3日間。

千秋公園のポケットパークを中心に、千秋湖畔秋祭りが開催されました。

NPO法人ほっとアートあきたの主催により、中心市街地への集客と活性化を目指し開催されたものです。

このイベントでは、なんと28年ぶりにお堀にボートが浮かびました。

長いときには2時間待ちの状態。大成功を収めました。

市は、秋田駅周辺地域で開催される公益性の高いイベントをサポートする「秋田駅周辺まちづくりイベント支援制度」を創設し、このような活動を支援しています。

今後も市民団体の発意による、積極的な活動が期待されます。

### 3.桜の古木調査



千秋公園は「さくらの名所百選」にも選ばれ、桜の開花期には市内外から30万人をこえる人々が訪れます。

園内の桜は、既に樹齢120年余りと、一般的なソメイヨシノの寿命と言われる70～80年を大きく上回っています。

市では、平成12年度から桜の根回りの土壌(どじょう)改良(かいりょう)や施肥(せひ)など、樹勢の回復作業を進めてきました。



涌井先生の基調講演  
千秋公園について語られたほか、  
地域の歴史や文化、芸術などを磨き上げ  
ることの重要性を強調



熱心に公園に関き入る参加者の方々

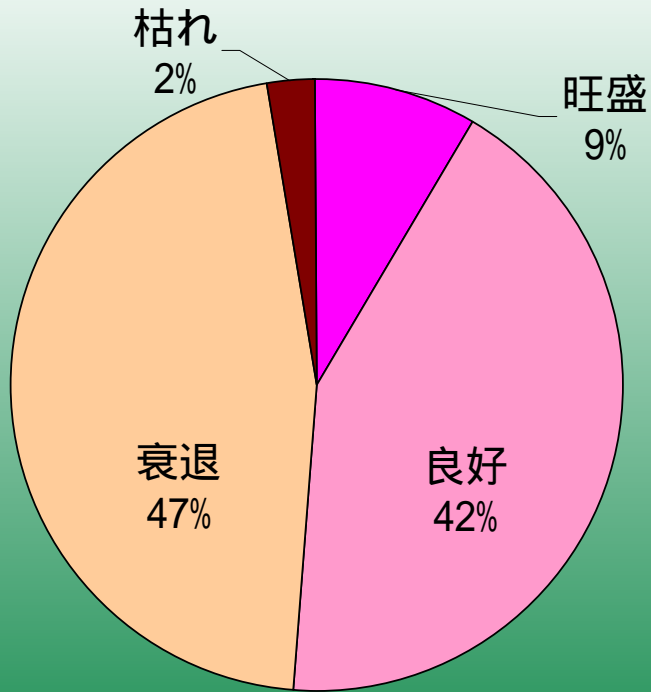
昨年3月、前回の千秋公園シンポジウムで、桐蔭横浜(とういんよこはま)大学の涌井(わくい)教授が、千秋公園を題材とし「風致(ふうち)施業(せぎょう)」という造園学の概念を紹介され、話題となりました。

これは、今ある樹木を永遠に生かし続けようとするのではなく、むしろ、全体の風致(ふうち)を保全するには、積極的な更新が必要である。というものでした。

市は、この概念に基づいた取り組みを進めるため、昨年春から、園内の桜一本一本について、葉や花、芽吹き、枝の状態を調査してきました。

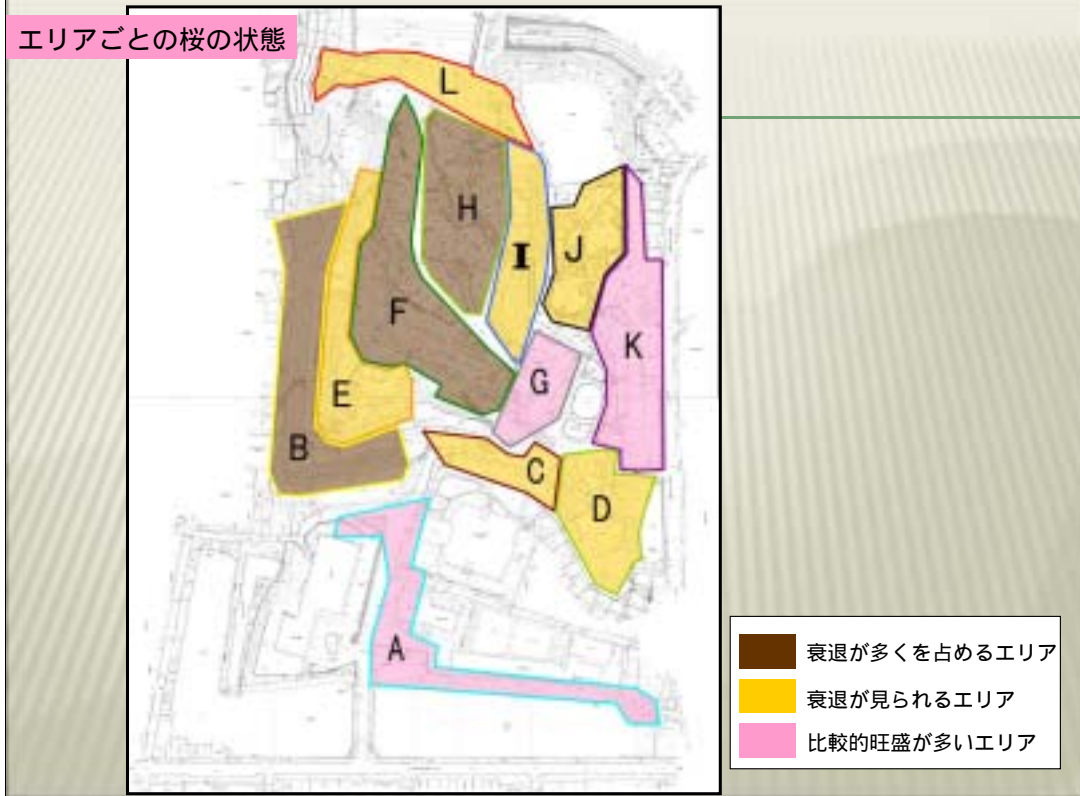


# 千秋公園の桜の状態



この植生調査では、衰退しているものや、既に枯れているものを含め、今後、更新の検討が必要な桜が、約半数を占めていること、

## エリアごとの桜の状態



また、本丸周辺、西側や北側の斜面に、その多くが集中していることなどが分かりました。

この結果を受けて、今後、土壌(どじょう)診断(しんだん)なども行うことにしていますが、千秋公園を「桜の名所」として、より良い状態で、次の世代に引き継ぐため、桜の更新に関する考え方などについて、市民の皆様と知恵を出し合っていくこととしています。



また、これをきっかけに「千秋公園の桜の更新に役立ててほしい」と、寄付の申し入れも多くいただくようになりました。

市は「千秋公園さくらファンド」を設置し、今後、策定する「千秋公園さくらの更新計画(仮称)」に沿って有効に活用していくこととしました。

### 3.外堀展望デッキ



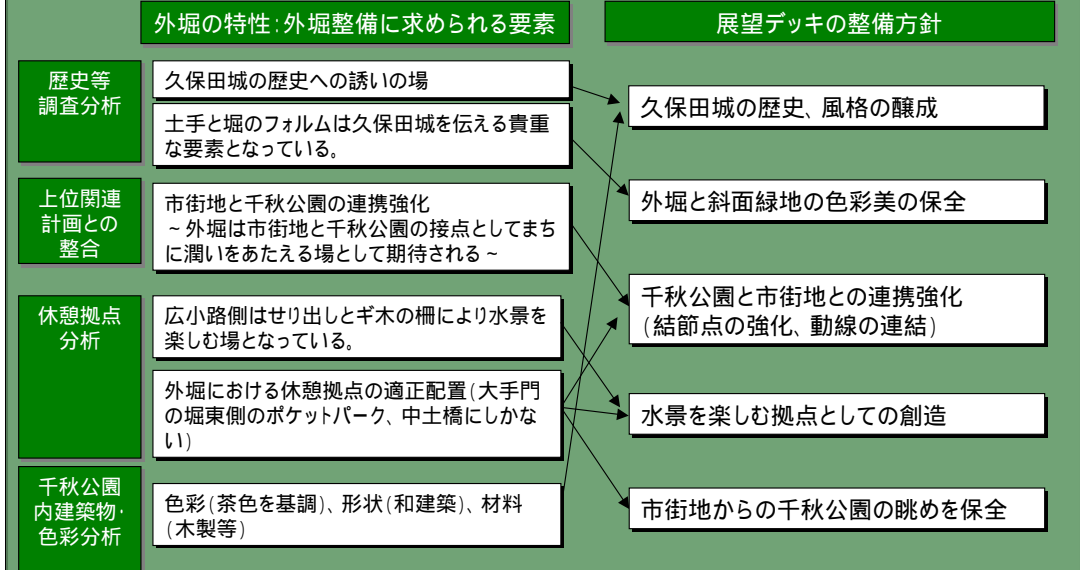
平成20年7月「秋田市中心市街地活性化基本計画」が、内閣総理大臣の認定を受けました。

その基本コンセプトは「千秋公園と連携した城下町ルネッサンス」です。

市では、まちとのつながりあいを強化し、さらに、千秋公園の眺めを外から楽しむため、新たに、広小路周辺に質の高い親水空間を創出する展望デッキの整備を計画しています。

# 外堀展望デッキ整備コンセプト

城下町から城への誘い  
水景と歴史の風を感じる場づくり

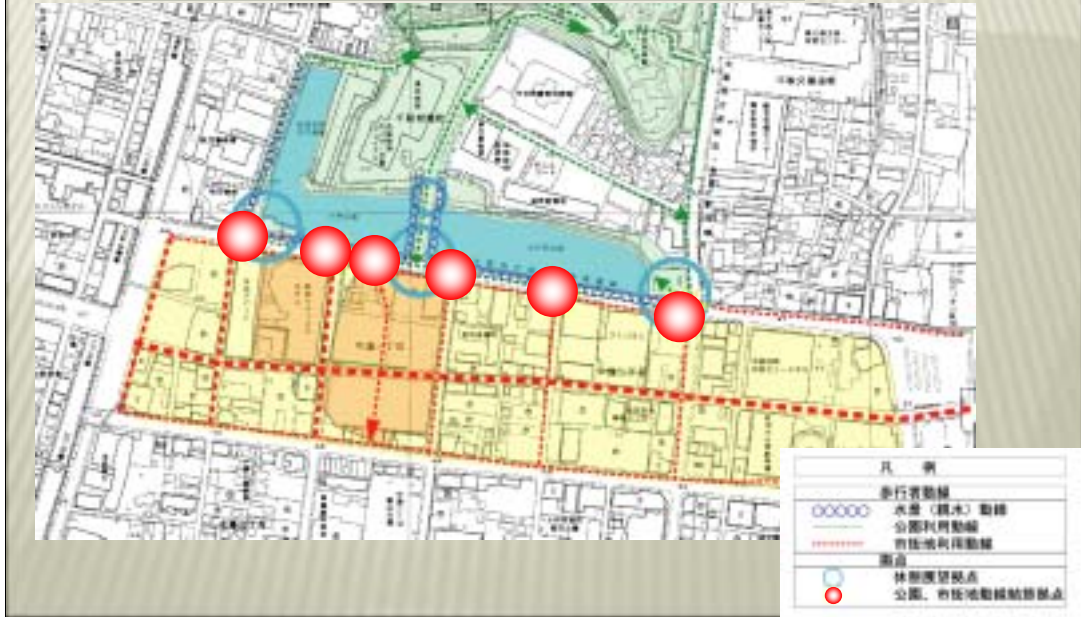


展望デッキの整備には、外堀の特性分析から5つの基本方針を定めました。  
久保田城の歴史や風格を醸成(じょうせい)すること。  
外堀と斜面緑地の色彩美を保全すること。  
千秋公園と市街地との連携を強化すること。  
水景を楽しむ拠点を創造すること。  
そして、市街地から千秋公園の眺めを保全することなどです。

また、整備の上での留意点として

# 外堀展望デッキ整備の留意点 1

## 動線及び施設配置計画（視点場の配置）



動線及び施設配置においては、  
千秋公園内の動線と中央街区からの動線が交わるところに、歩行者のたまり場として  
配置すること

# 外堀展望デッキ整備の留意点 2

## 外堀景観との調和



また、外堀景観との調和のため、緑地斜面を見上げることができるようにすること  
歴史的な外堀や土手のフォルムをできるだけ保全することにしました。

# 外堀展望デッキ整備の留意点 3

## 千秋公園の歴史と文化を感じる意匠の導入



意匠や色彩については、

千秋公園内にある建物の建築様式、形状、材料などとの統一感を持たせること。さらに、色彩は茶系統、形状は和建築、材料は木材及びそれに類する材料を用いることとし、秋田杉をできるだけ活用していくこととしました。

このような考えのもとで、4つの整備のイメージを作成しています。



# 外堀展望デッキタイプ

東屋なし



はじめは出島(でじま)形状です。

これは、堀に張り出したタイプで、入り口部がせまく、展望部分が広い。  
また、四方が堀に囲まれ、堀にたたずむ感覚をイメージしたものです。

# 外堀展望デッキタイプ

## 東屋付き



次は、前の出島形状タイプに東屋を設置したタイプです。

屋根付きのため、雨天時や日差しの強いときでも、休憩しながら、展望を楽しむことができるイメージとしています。

# 外堀展望デッキタイプ

東屋付き・幅2倍



さらに、広小路の歩道から張り出したタイプは歩道の屋根付き休憩所をイメージし、歩行者を気にせずにゆったりと休憩し、つつじや桜の眺めを楽しめる施設としています。

# 外堀展望デッキタイプ

東屋付き・親水



最後は、歩道面より堀の水面に近づいた展望拠点タイプとして、デッキ内の外周部を一段低くし、堀の水面や鯉、ハスなどをより近くで見ることができる、親水性の高い施設をイメージしました。

# 外堀展望デッキタイプ

東屋なし



東屋付き



東屋付き・幅2倍



東屋付き・親水



本日、皆様のもとにアンケートをお配りしています。

皆様のお考えに近いもの、あるいは、ご意見などを記入いただき、お帰りの際、アンケート回収箱にご投函ください。

## 5.黒門の再建



市は、表門に引き続き、二の丸東御門(ひがしごもん)、通称、黒門(くろもん)の再建を検討しています。

藩政時代、正式な登城ルートであったとされる黒門の再建は、表門と併せ、千秋公園を代表する歴史建造物としての役割が大いに期待されます。

## 5.黒門の再建



市は、平成16年度、建都400年の記念事業として「黒門(くろもん)・唐金橋(からかねばし)再建懇談会」を設置し、これまで、各分野の専門家で構成される懇談会委員により歴史資料の収集や調査及び検討を進めてきました。

また、平成19年度からは発掘調査も実施しています。

今後は、発掘調査結果と収集史料を照らしあわせ、できる限り史実に忠実な施設の再建を目指し、更なる検討を加えていくこととしています。

## 6.内堀の水質浄化



最後に、黒門の堀と呼ばれる公園東側の内堀は、水質の悪化が著しく、水質浄化や良好な水辺の景観づくりが求められています。

市は、来年度、自然生態系に配慮した水耕(すいこう)栽培(さいばい)技術を活用した水質浄化を、試験的に実施することを検討しています。





建都から約400年、公園となってから約100年を経過し、秋田の顔として、そして秋田市民の心のシンボルとして千秋公園は息づいています。

私たちは、次の世代に、よりよい形でこの千秋公園を受け渡していかなければなりません。

まちとのつながりあいを深めながら、ここを訪れ、市民みんなの手で千秋公園をより魅力あるものとしていくこと、それが、私たちに与えられた使命ともいえるのです。